

ななふり

平成8年10月1日 (第7号)

発行・神奈川県平塚市 編集・企画部広報広聴課

〒254 平塚市浅間町9番1号 電話23-1111

こども広報「なでし子」第七号をお届けします。今回のメインテーマは「平塚の今と未来」です。豆記者十五人は二つの班に分かれ、「平塚の海」と「七夕まつり」の今と未来について取材するため八月七日に市役所商業観光課、建設中の新港、ビーチセンターなどを訪問しました。また、さまざまな施設や学校の特色についても、それぞれ取材を行いました。そして、八月二十八日、市役所に吉野市長を訪ね、取材した「成果」を報告しました。みなさんも、この「こども広報」を読んで、平塚の今と未来について考えてみてくださいね。

取材の結果をもとに、平塚の今と未来について話し合う豆記者と市長



平塚の今と未来 私たちが取材しました

その1

平塚の海



砂浜でバレーやサッカーも

なでしこ小五年 井上しおり

私たちは平塚の海について取材しました。最初に行った所は漁港です。今つくっている新しい港はなぜ必要なのか、それか

ら、漁業についてもいろいろ話を聞きました。平塚の近くでよくとれる魚は、しらす、あじ、いわ

ら、漁業についてもいろいろ話を聞きました。平塚の名物といわれているのは「しらす」です。また、「ほとんど全部の種類がとれる」と聞いて、すごいと思いました。

おもしろいことも聞きました。それは、魚を食べると頭がよくなるということです。私は、「たくさん食べなくちゃ」と思いました。

次に、いまある港を見に行きました。平塚の海は、船と船がぶつかって、陸揚げのときにはかなりの船を移動させなければならぬそうです。そこで、平成元年からつくり始めたのが「新港」です。



「新港」などについて係の人に説明を受ける豆記者

みんなの海を大切に

崇善小六年 成瀬文

私たちは、まず最初に、漁港へ行って取材しました。そして、今つくっている新しい漁港について、お話を聞かせていただきました。今の漁港のままだと、船が漁から帰ってきてても港の中が船でいっぱい魚が降

ろせないそうです。また、漁で使ったあみがやぶけたときに、あみをつくろうとペースもないので、新港をつくるそうです。早く完成するといいなと思います。次にビーチセンターへ行って取材をしました。平塚

の海は遊泳禁止なので、ボードウォークやビーチパレートのコートをつくって遊びに来る人に使ってもらっているそうです。でも、困っていることがあるそうです。それは、花火のかすやごみです。私は、海はみんなが使うものだから、きれいに使わなければいけないと思います。

ビーチパークの中心施設である「ビーチセンター」は、平塚海岸に遊びに来た人たちがトイレに行ったり、シャワーを浴びたりできるようにと建てられました。でも、利用者がごみを散らかしたまま帰ったりするので、ビーチセンターや砂浜はだんだん汚くなってきているそうです。平塚の海は私たちが大切に守っていかねばいけません。これからマナーを守り、きれいで気持ちのよい平塚の海にしていきたいです。

マナーを守ってきれいな海に

みずほ小五年 佐藤麻衣子

取材では、まず、港を見に行きました。「今使われている港」は、船と船がぶつかって、陸揚げのときにはかなりの船を移動させなければならぬそうです。そこで、平成元年からつくり始めたのが「新港」です。

次に見学したのは「ビーチパーク」です。平塚の海は遊泳禁止になっています。しかし、砂浜ではビーチパレーなどのスポーツを楽しむ人などがたくさんいます。ビーチパークの中心施設である「ビーチセンター」は、平塚海岸に遊びに来た人たちがトイレに行ったり、シャワーを浴びたりできるようにと建てられました。でも、利用者がごみを散らかしたまま帰ったりするので、ビーチセンターや砂浜はだんだん汚くなってきているそうです。平塚の海は私たちが大切に守っていかねばいけません。これからマナーを守り、きれいで気持ちのよい平塚の海にしていきたいです。



その2

七夕まつり



クリーンなまつりを

大野小六年 井熊友信

ぼくは八月七日に市役所に行き、七夕まつりの話を聞かせてもらいました。七夕まつりは、なんと昭和二十六年からやっています、今年で四十六回目だそうです。

それから、七夕まつりの問題についても話し合いました。よく考えると、問題はたくさんあります。たとえば、ごみの問題です。七夕まつり期間中の五日間で、なんと百七十五トンのごみが出るそうです。それに、道にもごみがたくさん落ちています。

みんなで楽しみたい

大野小五年 小田切隆自

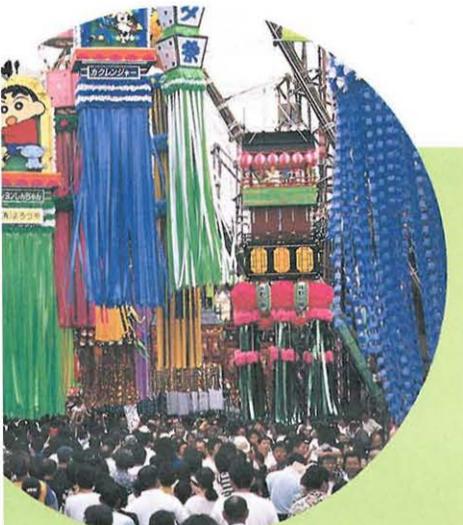
今年で四十六回目を迎えた七夕まつりは、戦争で灰になってしまった平塚のまちを、なんとか戦争前のまぎやかなまちに戻そうと始まったそうです。商人の人たちが中心となって、昭和二十五年に盛大な催し物を行い、二十六年から七夕まつりを始めたそうです。

みんな見に来てほしい

旭小五年 山口高志

ぼくたち豆記者は、八月七日に市役所の商業観光課の人や、毎年竹飾りコンクールで賞をもらっている瀧

色とりどりの竹飾りやパレード、そして屋台。ぼくは、毎年七夕まつりがくるのが楽しみです。竹飾りは、市内全部で四



七夕まつりでは、ごみも大量に人出の七夕まつりでは、ごみも大量にマナーを守ってきれいなまつりに



みんなが見ているのは、七夕飾りの竹を立てる穴のふた。七夕のまち・平塚ならではの工夫が街角にも見られます

また、気づいた人もいるかと思いますが、七夕まつりのときには変なおいがします。きつと生ごみのおいだとおもいます。露店の人や見物に来た人たちが、すっかり後始末すればそれもなくなくなります。

あります。飾りも何かりサイクルして使えるような材料を使うとよいと思います。それから、元気な人だけでなく、ハンディキャップのある人も楽しめるように人込みに押されないでゆっくり見物できる場所なども作って、みんなが楽しめる七夕まつりにしたいです。

口さんからお話をお聞きしました。昔の飾りは紙でできていたので、雨が降ると飾りをしまっていたそうです。飾りを作るには、高いものだと何百万円もかかるそうです。竹飾りは中心商店街で五百本、市内全域だと四千本も出されているそうです。

商業観光課の人が、ぼくたち豆記者に「今年の七夕まつりに行きましたか」と質問しました。そうしたら「行かなかった」と答えた人もいました。「せつかく作っているのだから、すべての人に見に来てほしいです」と瀧口さんもいっていました。ぼくも話を聞いていて、平塚の人はもちろん、平塚に住んでいない人でも七夕まつりを見に来てほしいと思います。

ところで、ぼくは今年七夕まつりに行ったとき、ごみ箱からごみがあふれているのを見かけました。まつ

限りある水を大切に

金田小五年 安達 雅

八月五日、私は東豊田ポンプ場へ取材に行きました。ポンプ場は、汚水の中継する仕事をしています。地上一階地下三階のきれいな建物で、大磯町と平塚市の西部から出される汚水から大きなごみや泥、においを取り除いた後、四之宮にある下水処理場に送ります。

係の人に中を案内していただきました。私が、特に感心したのは、地上一階のコンピューター室でした。コンピューター室は、ポンプ場のすべての機械を動かす役目をしています。赤と緑のランプがあり、「赤は作動、緑は停止」と教えていただきました。

そこは、鼻に「つん」とくるにおいがして、この臭いにおいを汚水から取り除くのは、大変なのだそうです。私は、ポンプ場へ行って、汚水をきれいにするのが、どんなに大変なことかわかりました。

次に、感心したのはポンプ室です。何かがぶつかると、コンピューター室は、ポンプ場のすべての機械を動かす役目をしています。赤と緑のランプがあり、「赤は作動、緑は停止」と教えていただきました。

ポンプ場は、汚れた水をきれいにして下水処理場に送ります。ポンプ場に最初に入ってくる水は、とても臭くて汚れていました。下水処理場ではいくつもの行程の後に、きれいな水と汚泥を濃縮した脱水ケーキにわけます。

私たちは気づきませんが、身の回りにこれらを利用して作られているものがたくさんあるそうです。そして、まだまだ有効利用できるものがあるかどうか、いろいろと研究を進めているそうです。

東豊田ポンプ場



ポンプの中を見るのは初めて。係の人の説明を聞きながら、施設の仕組みを勉強しました

脱水ケーキから有機肥料

勝原小五年 木寺智美

八月五日曜日、東豊田ポンプ場を見学に行きました。想像していた建物とは違って、とてもキレイな建

物だなあと感じました。中に入って職員の方が各部屋を案内してくれました。

しかし、いくら下水処理場できれいにするといっても、何でも下水に流していいわけではありません。家庭での役割として、油や野菜のくずは流さないようにしましょう。



コンピューターにびっくり

ポンプ場は、汚れた水をきれいにして下水処理場に送ります。ポンプ場に最初に入ってくる水は、とても臭くて汚れていました。下水処理場ではいくつもの行程の後に、きれいな水と汚泥を濃縮した脱水ケーキにわけます。

今回のポンプ場の見学は、



情報コーナーでビデオを見る吉野さん(左)と山内さん(右)

さまざまな絵を見て

私は、美術館に行つていろいろな絵などを見てきま

大原小五年 吉野美帆

博物館には、どんな物が飾つてあるのかと思ひ、私は、博物館を見学することにしました。
一階は、相模川の様子と昔の暮らしの二つに大きくわかれていました。相模川の様子というコーナーには、相模川にすんでいる鳥や魚のことが写真でわかりやすく展示されています。相模川の舟というのもあり、いろいろな舟が十分の一の大きさで展示されています。河原は生きているというコーナーには、植物や生き物のことについての説明

博物館

があり、小さな花などが展示されています。ほかに縄文時代の暮らしも復元されていました。
二階に上がると、化石は語るといふコーナーがあり、いろいろな化石が展示されています。また、縄文時代や弥生時代の道具などもたくさん展示されています。そのほかにも、大きな舟がありました。三階は、



昔の家の土間を再現しています。土かべやかまど、うすときね、農具など、使われていた様子など想像するのも楽しいですね

昔の暮らしにふれる場所

相模小六年 今井香織

プラネタリウムでした。私が一番よかったと思うのは、一階にあった昔の家

です。その家の中には、昔使っていた道具などがありました。そして、子供たち

たく出ま

末をちゃんとしてもらったほうが良いと思います。

美術館

した。美術館は、外から見てもきれいだけれど、中に入ってもすごくきれいで、静かでも落ち着く場所でした。

私が行ったときには、椿貞雄さんが画いた絵を二階の展示室を二つも使って展示してありました。私は、展示室にあめを食べながら入ってしまったら「ここではガムやあめを食べるはいけません」と言われてしまいました。私は、ガムやあ

めを食べるようになるねばいいのになと思ひました。美術館には、展示室のほかに図書コーナー、情報コーナー、市民アートギャラリーなどの施設がありました。情報コーナーでは、絵の画き方などのビデオが見られて、とても参考になりました。そのビデオの内容を思い出しながら絵をかくと、とてもうまく画けるんじゃないかなと思ひました。テーマホールを歩いて行くと銅像などがあり、その下には、目の不自由な人のために点字で題名が書いて

施設訪問

その3



ありました。私は、いろいろな工夫がされているんだなと思ひました。
美術館はとても勉強になり、また行ってさまざまな絵を見たり、もっと絵の勉強をしたりしたいと思ひました。

が遊べるように、けん玉やコマなどがありました。博物館は、一回来てみるといつかもう一度行ってみたいかなと思うような、そんな気がしました。

楽しいキャンプがい

岡崎小五年 竹井千奈

私は、大野子どもの家を取材しました。なんと、毎日平均して百二十から百三十人ほどの人が来ているそうです。
大野子どもの家は、子どもたちの家の中では一番新しく、もの家の中では一番新しく、

平塚市には四つの子どもの家がありますが、全部木でできたログハウスです。私の住んでいる岡崎地区には子ども家がありません。岡崎にも、子ども家があるといいなと思ひました。



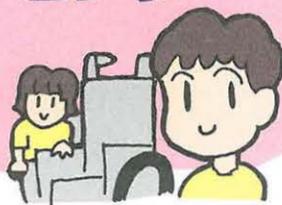
外観も楽しい子どもの家。毎日たくさんの仲間が集まって楽しく遊んでいます。せんぶの地区に子どもの家ができたらいいな

料になり、また焼却炉で燃やした灰はレンガやタイルに再利用されます。ふだん

になりました。このポンプ場の役割をみんなに伝えたいと思ひました。

その4

ボランティアセンターを訪ねて



私たちは、福祉のボランティアを取材するため福祉会館へ行きました。福祉のボランティアとは、たとえば一人暮らしのおばあさんが「かせ」を

身近な所から手助けを

崇善小五年 沢村 泉



初めて点字にふれてみる

私たちが、福祉のボランティアを取材するため福祉会館へ行きました。福祉のボランティアとは、たとえば一人暮らしのおばあさんが「かせ」を

ボランティア活動に関心が

港小六年 杉田真由美

私たちが豆記者は、ボランティアセンターへ取材に行きました。説明をしてもらうまでは、ボランティアとはどういうことをするのかわかりませんでした。

ボランティアとは、自分の意思で選択し、積極的に参加するという姿勢、そしてだれに強要されるわけでもなく、自分自身の自主性に基づいて活動を行うことが基本だそうです。



車いすを体験

ボランティアとは、自分の意思で選択し、積極的に参加するという姿勢、そしてだれに強要されるわけでもなく、自分自身の自主性に基づいて活動を行うことが基本だそうです。

ボランティアとは、自分の意思で選択し、積極的に参加するという姿勢、そしてだれに強要されるわけでもなく、自分自身の自主性に基づいて活動を行うことが基本だそうです。

ボランティアとは、自分の意思で選択し、積極的に参加するという姿勢、そしてだれに強要されるわけでもなく、自分自身の自主性に基づいて活動を行うことが基本だそうです。



平成8年度「なでし子」豆記者

氏名	学校・学年
安達 雅	金田小学校 5年
井熊 友信	大野小学校 6年
井上しおり	なでしこ小学校 5年
今井香織	相模小学校 6年
小田切隆白	大野小学校 5年
木寺智美	勝原小学校 5年
佐藤麻衣子	みずほ小学校 5年
沢村 泉	崇善小学校 5年
杉田真由美	港小学校 6年
竹井千季奈	岡崎小学校 5年
田中峻介	松延小学校 6年
成瀬 文子	崇善小学校 6年
山内礼子	真土小学校 5年
山口高志	旭小学校 5年
吉野 帆	大原小学校 5年



真ちゃんふれあいハウス

私の小学校、真土小学校には、特色が三つあります。まず一つは、給食を食べたり、地域の人に開放したりする「真ちゃんふれあいハウス」があることです。もう一つは、「真土っ子

その5

ぼくたち・私たちの

学校



グラウンドでもちをついたあと みんなでつくたてを食べます

ぼくたちの学校、松延小学校では、毎年十月の最終日曜日に地域の人の交流をするため「ふれあい松延」という行事を行います。午前中は、ロウソクづくりやペーパークラフト、手品、紙飛行機づくり、お手玉など、ふだんの学校の授業では受けることができないことを教わります。さまざまなコースから一人一つを選び、一年生から六年生までが一緒に教わります。この教室の先生となるのは、地域に住んでいるお年寄り

交流深める「ふれあい松延」

松延小六年 田中峻介

や、お父さんお母さんです。それを、一年生から六年生までと一緒に教えてもらいます。

真土小の三つの特色

真土小五年 山内礼子

この日のお昼には、グラウンドに大きなシートを敷いて、地域の人やお父さん

お母さんと一緒に、みんなでつくたてのおもちを食べます。午後からは、グラウンドで体力測定やゲームをしたり、午前中に作った作品で遊んだりして楽しい時間を過ごします。

まつりです。まつりの日には、真土地区の人や真土小の児童全員でお店を開きます。去年は「真ちゃん時代まる見えデパート」というのを行いました。内容は、昔、現在、そして未来の遊びやお店をイメージしたものです。三つ目は、六年生から一年生までが音楽朝会を開くことです。音楽朝会では、毎月各学年が合唱とか、合奏をします。音楽朝会が近づくと、みんな必死に練習します。私は、こんな真土小学校が大好きです。